宰治拾遺物語

十

へ 12
4108
10

門へ12
號4108
巻10

宇治拾遺物語巻第十目録

一 伴大納言應天門焼事
二 放鷹樂の選に是を学ぶ事
三 堀河院の御時笛吹きの事
四 浮屠ゝ八坂坊より強盗入事
五 ちりを拾はせる事
六 吾嬬人止生賀事
七 豊太の事

門へ利10
號4108
巻10

佐藤藏書

八 義人殺死乃事

九 小槻當平事

十 海賊殺死乃事

今もむかし水戸尾乃御門の内と死よ應天門の如
人乃法也さるあるあんあるとあるれとと仕りさ吉世ゝ
大納云ふまとそ信乃大長乃さてさけるとと大夫をにや
をもさ出れかくぐ様つこせんとせさ繕ふかあこうの忠信
世乃渡そ出れとこうこの西三條の右大臣良頼公乃さけりて白川
ふあるとあ法へ京河ふてお乃事城きゝ切と様き法
こ出鳥帽子を重ふあこうこ移乃馬ふれるを法くれり
あこゝ和乃陣まで切こうして法あるふさ以ると行てこ乃
事中人の謂云ふを伝こんと乃事にあこを也法おとを
あと法こ乃事けり所法あとを也法こうくさこうして
まあと乃事ふあゝこうこあこを也法べきこうを

そうし給まれば海のとにはかぎりなくさせ給
ふ。一宮をひきまゐらせ給ふ。御供にあり。
宣旨うけ給はりくだりて、はるばるとくだり給ふ。
ものゝ上にのりて、海の面をはるかに見わたせば、
はるばるとひろき海の面なり。
とも綱をとりて、ひきてゆく。夫乃ようにて行きるにゆるぎ給
ふ。供人の次中将馬より下りて、海の面にうかべる。
ひろき海をしらべて、供人ども、あるかきのごとし
あるゆゑ、ゆゑ給ふ。物のかせをてはりぬまでなみ
さびあるきものかしかるとこゝろゆるされ給ふ。
大海を見つくさんとおもひてこゝろの罷りてきあべ

物とこゝろとゐれとくおもひて、夫人もし
給ふ。ざうもつ、ものこゝろ、事八重、樣乃ごとく長乃食
物、をの東西七条より伯耆の国にかけて、祇園
さくれよりはじめて、廻天門乃東西ともに、ものの人乃
をそれてさえ光くゝ廊の腰よりはじめて、ものもとりて、
指ものとかくりはるものあり。あるものしくてこれ俳
大納言ありけるよりはるの人物ふまつ次よりの新女さう清
といふりのかるかるかるとさてはるくまりあくんと清
ゆかもまりてんこの三人かるとつるゆくり
さう清をかまうかるこゝろ。南乃東雀門さゆのさくく
ゐまこそこの今人をもあさゆのくだりて二条堀川

乃ち行ひよ大門乃ち江戸大路乃ち
えうりてそれぞ内裏乃方とみ奉まつりて
ぞ恵夫門乃おうしまちまちまちまちまち
こ乃あるとはるるに人どもいこ乃夫法てるそてゆが
ひとりけるあるひとんしてあまども人乃きえ
ぬんゆる大きあるまぎあくはるとかりてやき
ぞろ乃くち花の如くはるとそて羅か
うあり行へしといの乃くふあれくうの
あくあをいてきおとりへどいれいてん
きとあくあをいとおもりあくにおくぐ
ゆるされぬときをはくとあきとそつみう

乃ち法のことのありおとこはいかるかあくて花ぞ
つとりぬあくはかりとあ侍大納言乃出納の家の如これ
花ものと今人が小童といきうれとそてお納乃くこまで
くくろるとさへひとすうにはい乃出納ものるくしてく
乃ふるはしるとくあきちてるゆ法ぞ家に
入くおの乃今人ぞおれ餐をまてうちぬをてこねぞろ
つ物ひ今人おりしあるうるぞよもくの乃よもをまま
童ついさられおりまてくあそ家ゆ法くしま
あくはさあおくあひしくいとあくはまりとくくあ
こうてはいうとはいてあきを用くかさは花もの法か
白くくするふうとくこ乃納ていあうかあこ乃事いかぞと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるとていれをあるよ山階寺乃三面の僧坊よりあ
をるがちてれをの門かさしをさへぬるへあしんをかと
いれくまのちをるが安乃ぢくへきくへるへありこれ
ぢとふよ是乃ものとふ放逸者樂あるれよりこい
れをきいがちるかちとまつてふがとれをち坊中まつて
件乃樂ぢ流をへをち
ちをきいまよをく平あ堀川院乃御とき紀乃奈良れ僧と
をを先して大般若乃法讀經ちかをれをるにはる選
こ乃中にさいる其間よりを上流笛ぢあうだをるか
あるくよ調ふぢ流へくあるを流れをるにはる選調
ぢとにて急をとへをあをくを迎へ頭上あ金ーこをて

ち乃僧を先ーをれを明選ちをきてを流よりはをを
ようをとて乃かつをてすれるにはを笛やあるくへ勢
おをーはーをれををかあを乃ちをくを法るをつりはをけ
をいをれををてをを流はををかれをくあるを世をれをる
よ方樂樂ををををいをを流をれを御感
あるをくをりをを乃笛ぢをれをくをを件乃笛
ぢりをいまを八幡別當幸法ををとにありをを件笛

幸法進上當今建保三年也

あまことも今はむかし天暦の御ときに清涼殿の八坂乃坊
に強盗うち乃数入りぶ事ありしかとも一大
刀にて切ふせ給ふ事なし。ある時くろくみてさ
ぶらふとて乃くせものとも
きんゆきすなわち御家人なり清義なるに啓白をつとめ
ゆきすなわちとりこめ給ふ盗人
どもつぶさにうけたまわりて
今はむかし播磨守きんゆきぶみとて
ものとしてあつまりもとめ乃そのほうあるあきむねと
乃文ありうち乃さこゆきの御家さとなりうち
ゆきの波へりくだりて死をうしなのさこゆ

をで河内前司といふ人乃海いりて荒れまどけるうれ河
内前司ゝをとてあ先まごらかる牛ありをるとう乃
牛飼人の借て車ゝをて渡へかりをるをよびゝめの
橋りて牛飼あく屋りて庁橋をとうるとおとう
くあるとけるあ乃むうれく車れとうるとをてれち
をるゝをとくる海乃おつくることゝてうしれあをれろあ
つて出てをれをれむあるゝいをれくるまはおち
くうをうををよありうしい一橋乃うへよをゝ海りて
ぞあるとけるゝ人をれらあ車なりをれをうこれを
あくゝをあるとをうを牛あう海りをひれく
おりて牛をうこあをれまいうう乃牛乃かうれを

うあ乃あんの人いれを荒れをるおりてあ乃うゝ牛いうをうゝ
あゝにこの牛いりありてうせをるといふあをあてうせをう
ていの牛るををでとをとめさををとあゝだあをていでる
ゝてちあくうあとを恵く海ゝ荒るゝ荒れさすれゝとあを
ををそうゝでゝありけをうゝしけうゝしけうれけるとなをくゝ
河内前司ゝ荒りをみる屋ゝことをさをゆゝ牛をゝをれこれ
を海りをあちゝ人をく牛をゝをゝ人をいうにをゝ海りをあを
ありをんゝいでをれをあゝありをれをれをゝをゆゝあいゝ屋ゝうをれを
とゝ乃うゝしをゝれををゝをあゝををゝをゝまゝゝゝ日にゝゝれ海荒
れをゝゝの牛をゝ海をゝあゝりて昔をゝうを牛るをあゝりゝれゝをゝの
ををゝ乃牛乃あゝあゝく牛乃をゝをめてゝおをゝく牛乃をゝ物

乃至とへまゐりてかちまゐるうくるの紀よこのあ先ん
まうぐらに氏清車牛乃ちくるにつくてゆ利とくゆよい
見ぐくもとゆんさ世ゆへぐいまゆ白あるもて六白とゆよん
已乃河だるもうは過しーちゅうんいるゆれまと先ゆて
とゆんうくさゆんりまうり町ゆ流義ゆーそこうまとつれてを
ねうう乃義こゆるまうもう六白といゆ已乃河だるうゆるゆ
まこの牛あゆこ八ゆまうけるゆうぐくゆ大事ゆうゆ登
りてくうまぎに吾こゆれあせのりてこし入ゆうまるゆ
ゆ流先のまうりて車ゆう入牛ゆとゆうゆ吾ゆる
おうまなんゆゆ利あくくうこゆよ紀牛ゆれゆて
うりてゆうまりてあうきまるうやあうけんとゆうん

きゆうをゆうゆしゆうまゆと河内義ゆ町ゆうゆ
まはむーゆ山陽道義作ゆまゆ中ゆんゆ町ゆ神
ゆくーゆとゆうやくまうゆれゆ中ゆむゆ猿丸ゆて
んれゆすゆうゆ紳年ゆ乃祭ゆ町ゆ沢ゆまゆ
ゆ先ゆゆくゆ人乃ゆむゆ先ゆゆくゆうゆん町ゆ
まゆ町ゆまゆーゆまゆて町ゆうゆ先ゆ
ゆ先ゆくゆまゆまゆる町ゆーゆうゆ
ゆ先ゆゆ町ゆゆゆうゆいゆまゆて
ゆーゆくゆれゆゆ人乃ゆいゆう
ゆとゆーゆ人乃ゆ
ゆりゆれゆゆ

してよ後世よりめでたきまれたる事なりとて
後の世人ともさるべきてらの名をとめて
やがて月日経過もとかくの余情ぐまの事なれや
ものと遠ざかんといまいくたびかあるべきとかもよりて
日数つもりくるぬ書い筆で福徳乃ことあく御なとも
あばま乃人の物といふまことのこゝろと云く猫の
とつよりめくさ筆もちたるもくるいとかそろしき
を乃命ちうを逃くめよりあるよさも思ふ仏よまいせ
くもろしいちもとかてとすかものいつて
ゝ所乃ちかゝ法すくゝ仏もきくむくつを紙あくゝ武
乃ちとの法ゝ仏ゝ乃ゝ紙ゝ乃ゝ法ゝ乃ゝ紙ゝ乃ゝ法ゝ乃ゝ紙ゝ乃ゝ法

あとの所の事乃事先んずるよりまた祈をかうぜしに
まことに乃のぞうの色とぞ出さしてうの女房をこぜ
うくうあぜをまとぶ面に死行きんをかれ[illegible]
してかくもれいてうの事ひるもちかてうり
法命ちんぜ女房めれまへのいきかくまれるぞく
つまをうの初めをさせうくまを見ぜうんゆしかうへき
まをあるしさをかぜんこを行きんをかるしまをあり兵
うの乃房ぜ家よあつまを行へと稲んぞうよいれきれ
ぞうよまへまへよゆうし死さ海りて去るん法うんち
ちをそてとうせぜりくてあぜまへへこの女房とれかて
ちれぞあぞうちまをかうまをあり[illegible]あれきやうを

一拾遺ぞうるちまをあうりてうちまをかてうあるこれとする
あうぞ乃独のうへうよあうりてねまをありあり法をに人乃
をちんのもを色を繁とうかまありあり家法れい繁も
ぬまをあうをうまあうくまを思いうと法るさ海ふるに
人乃きうまをいうくぜ法くまりをうをうをうんをてを
あうぞひまを家染まをにうを法をあり凡をう
うをれくをうかうをかうまをぬ中人のをとうふ
面うをあぜを人うをとをふうれきをいうん
うをあうぞをいうをもく家乃面をかを能ハをを
をうをれうをうあんををくく代女乃又母をうやう
思うまをふををとて法をりうをの家代法をに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うれ繁乃日に成りて京に出でさせ給ふ川乃
人々に成りて有けるすいとて遥よりとまりて有
し程に川とあの女はぬ家所のさし入くいふ
面うに倒乃面うよられるへくその生贄つざされる
といへどもこのわたまの人さらぐあるべ乃ものとみられ
やうんまりに志給へとそ川より入うれて入布せ
たれ乃ちうにはの大ぜを殺とるをいまてい入面う
をのまてこの乃日はいさうかれつるうれあるそ
ぬ生びのとう食ひうちうめきてそれをの生てこよといれくぬき
あづまいうちうめきてそれよりれうれてこれあるね
まりはとぜをかさつる大刀刀をれ面はさて

ぬ法乃あるこ殺ぬれうくぬ布をくぬれうく封つあうく
ほうむをぬんとのまを家面うにぬをくせてこ出
しを生をて梓梯鈴鐸をあうあくせてこ殺を
れ乃くをりてをそさいふふを海いをいてくをて女られ
をやるよりれよあくうをしを乃男れくをくいぬるこ
そいとあくまをなれとかもよる又を力にをいてこえ
ほうかを面をちいうまれくをんとあくれあるき
なううをまこうも又女乃いう面うハ所れを殺ぬそ
神を佛もかうを殺しをれをぬるまをあまをハ今いれそ
殺し殺をとをあ行あるあをあくてをあくなう
ぬんいまををあうあんをくるをしあくをれをいれなうあく

さくいをよ志ゑ法社よりてさいつと称乃のといつ
ゑしやて称乃ゆま人の戸城あをてさの長横とさし入
ゑく戸城ゆとの角うけさしてうれかもあ乃ゑこれ法ら
さ城ゆとめく次くの角ゆを次寸にれあゑれみゑちさ
ゑゑとにこの城川を乃れさきしてゆをれあれゆとあ
をてあつまよ人をれくまゆとに多をいゆ法大ゆる
猿乃寸を七八尺ゆるとけるあゑとゆうとゆああ
くしてしいつとうゆ城きゆ乃ゆいつあゆ法ゆき
ゆ毛ハかれありつと寸るさ法ゆてゆて社よあゆ法
き、れ猿ゆも左右よ二百ゆゆゆゆゆゆまくく
よあかをあかくなゆまゆをあをゆ志くにゆ

さをび乃くしゆいとゆ大ゆるれいさよゆゆ乃ゆゆ包丁
刀城具してを社寸ゆとめゆゆとはす酒ゆゆ入ゆ社と
を乃れうとをゆるあまゆを社寸ゆとさて志ゆゆの
つとあゆれかゆに乃ゆく社よあゆるを寸猿よつをきて
長枕乃ゆれをゆゆを社ゆゆあ寸ゆくゆゆ城あをんとゆれゆ次く
猿とをゆれよゆくんとゆするゆをにゆ乃男大ゆをゆゆ
を乃まとつゆゆ二社大わゆゆとゆゆ中に大ゆゆ猿をく
ひくうちねをてゆをきゆて食ゆゆうさんとゆるゆゆ
よ社おとゆ長城ゆゆゆて社ゆゆおとゆゆ水乃ゆう
ゆゆ乃城ねきてゆうんゆゆ城れ板乃うゆよひき掛をて
ゆゆびよゆゆれをあゆくいゆ角ゆをのれゆ人乃いのゆを

さてちうのたくむ所は食物とする地をかくぞあるを
めづらしきをなにとそしめるよたゑかれゆくなよめし
てんとつくりかたちあるくあるて用ゐたまはれくたまは
ちうよりこれおしてめうのうと西乃あるをかりて海をを
よあさはしきかたつ地してまはもうとれし先ぎもさて
ゆるさだたくをうのまりうこぎくのかくし年ひとのうた
をくれ人乃そぬとくあうてに志ゑくびうてもそん
おとさて今よしてあ先まをの道の所さうぎあを
うちを更ゆくるふしめ定といれあうまずにうびを
むをみよ地うあるもどさるをにこの二乃大どもにを
れくかるうの乃さるうもまれ本乃うよは迦乃ぎうまど

れさまを紀さまを乃くしあるはしをもひがきて地もめうう
ぬ爲しめ家ぎに一人の神を祭りきていふ爲をふ
うを保さうにくおの乃をう志ゆせるがくさぎめて
ん人をおゆ紀をて事おうをうをしらをぬい乃ち紀をの内を
四をうをひがくおゆ志保しじまくこ家をかくおゆ志保とてあ乃
男とあくしまくをふれいをに志よあらをつうへかん
ゆうを紀をてうしまつくを家爲かうにあやまうをとてうれ
人のみ緑乃をを志くにいうを家まで氣まをうをとあん
ををくごうをくにくあび乃りをうのちゆをおいをを
あーをれをををををををの行へをを爲神をうもを
しめてかうをれ人をを行ごうを紀あって氣社乃ち

よ入へあらてさえ花あるとて
をあはうとさで伊勢さて伊勢神よゆるし給へ法神も
よくぞおわせら海〜とつへ給もこの乃あづまへ入れ給
給されば人乃いのちを先ちあるものなれば
法なを乃くもびしさを〜ちんとおもへあり。氣毋こそあ
あるまこをもで志海さまんくるしかたとつれくさ給よゆる
さたうし海ねどにこ乃ま猿のくだいさるとかれさまぬとこ
ゆまこで天法ぐさこもくよ海ぐれしてまあをにまへ出ぬ
をあをれむいこで花ちうおぐを地をて〜和ゆく
今うつ乃ちあく海ちを更よくまべうこだあど神も
いへぐさうをうくいまうるを法をあく海あをを世を

とつのあくめてゆうし法さてうれうり乃ちへまべう
人はいまに志よをだあり法をりさてうの男ぬりよねく
いうこう男女あれおうれいく年法乃毒更よありて
をぐうし毒をも男いをとうりゆへあるとけうへ乃ち志
あるとうれぐくうれ行しあぬさ海りて伊わををとそ
法をを加乃ふをり猫康をあへいまこに志ぬ身しくぐう
けうこぐ
今をむり稲原乃法門の御子氏乃法ようてうの花
の大きりんとつふあるを毒り定伝りて可ち形ゆ大和守
うてうあんあるとけふ世乃ちとをうくちりぐへもれを
ぬくく大なをの法波をもうの紀あり出ようへちうとくく隙

國乃あるんそてもちんゑ乃あまくこあきこあるのうむ
人あるんそとも乃乃ゑ乃乃ゑとにおそくはてうれ人をてう乃
ゑ乃寿う乃ゑ乃あそうんうう乃人をう乃ゑくめて乃をし
ゑをあうし乃ゑとにゑ乃ゑゑ乃ゑくゑうをる事をと人
きして除月乃乃ゑよこれ大君乃をゑうをうゑとにゑふ
ゑをうし乃ゑ乃ゑをうゑねゑこの大君乃をゑをうゑうゑ除
月乃ゑうゑとゑうゑくゑうをくれをゑ乃ゑをうゑ乃ゑ君
乃嶺よゑゑをゑとれてゑんゑうをぬゑゑとゑゑ人ゑを
をゑうをてゑゑゑ

郡寺といふ城あるてら乃どうをくぐりとかしめのくるまに
あるせくこ小姓と云大長殿（実説云）いまるくに中おりてゆきもも
ふるうと殿司ふを武ア美乃ねぎ海とかくしかうれお
こをとと乃行のれぐこのまるとつうさまるてれこすん
をくここるふるをうてうこ呼あるゆしさんいさぐり
くくやを行ゆをとりいうで地をさり風といふを地く
てあるとあふ殿と人殿人をのもれぐこ行地ゆう
後しあるをれぐ風うてむきこをるゆくさ海ゆこ殿を
ちるふ乃中将さうとてあるこ地事ゆくこ殿ゆを諸国
乃下郡めしてかきこでよとゆくゆれ後いだくう乃
陣ちとうこ行べきとゆせこで東乃陣ちゆを長

きゆうと乃後を地くて内乃人あるゆきう赤ル陣
ゆあくこでゆく城こん云て法どれあ法ゆるもゆこ乃
に中ゆへく西ル陣ふうも殿と乃をうんあくうゆきこて
くゆぬきくへくもを見をゆうね陣乃ゆをいゆ後ル
ゆどうゆ文乃こ伝きてひりへどるくくるとぬうこ
へくゆ見あくこあうぬる地ゆとあんへくいれ来る
きてサ日ちるとあうくル中将乃最ゆあるう殿う
うていくこうゆきてゆて地をいふゆきこいくうれ
しくくを乃きう死のくこ後くさせ行をるふこ西こ
ゆうこを後ゆ後ゆこくうちて西ゆるこいこさせ後くし
ぞくほーうはゆうくく乃人ゆ西後こて人ゆくくく死ゆ

そこなうてはいとはしぬべしとて、おくくるまに、ぜんぜんとてもろこ
ぬとかんがへよみ、さてさしもの
今はむかし、主殿頭小槻當平といふ人あり、その
子に第博士かしこきものあり、名を義分といひ、
家主殿頭忠長の父、大淀路ちかき大史奉親の祖父なり。
いまさしもしらぬなんどとかくまりめへきをのがれいで
おかしきものあんめり、出さしもれじとて、ひとりの枕元
助たち、史殿をこんとかしこまりこうもかりん
ものとかりいつこそものもの威あるふうにいとかくんも
ぞんをうる物ありきれば、ものおもひ
なりくれとあさましかりをてゆきぞかくて

そこにあるとかんとかのしかの人の家にさし
ぬきたりきれば、ものもの陰陽師ま物をとりよい
ひんくをとをくしし、ものもの自とをもをれつてくこう
をさしもをれのこうれまくれ門をはよりさしてもの
いんしくあるに敵乃をもくまくに陰陽師よ
死ぬべきものとさもさしもれまくまでうれまりとさ
主殿陰陽師乃いとかくまくにしてあくこにはくしむ
為れ月にてあくれ乃自れのあるもでもこの家
しあるべきさまをもくそのまくにてうれ家にあく
ものくまくまでいでれ門をれこもあるもこの
をくまくあるものとくまくにあるものとくまくにあ

あんといへるものをたづねうれば家にい
きて門をおしたたくに老くるめ出てきく
ものをたづねどくもりなくといへるものおとろの
まうしてさいはひありいまだ死ぬるこころもな
ものをめしてあをくいまだ行くへ大切の事ありとつぐるものを
おのれ下男をつかひ入るくおのれいんといへどいとまなきも
ことをやり世にあるべからぬ人の所思さぬ所にあるべいまし
ものをまつるに夫のあるべうあらずをくなり給ぬといふ
もれをまつるこいよ所をうつぐ門をさしあををたづねとも
うれなりやあるべ新をさしぬ所をうつぐ門をさしあををたづねとも
いへまで死ぬべき宿世やあるべ第一の事ぐとをく

所つぼ戸をうつ門をかけ陰陽師をいでそとりまもれば陰陽師
乃大文殊をくおもとみをくをいへるものをのろひ
あそんとつかへもつぐ死大事ものんとつかへもつ
所死ぬとも所ぐ稱ぐ所をく今いまのまうれぐのの
ものをしとおすれをくはつるものをや
入道稱といへ大事ものをあぐるとけ系をたちう
をくへをこれをくはものぐぬをこれをくいへ
をまをるをなりて所ぐ所つぐをくあるをて三百といふを志
よをあるをこれぐ物思をいををくよ所をいへはあ
をぐ死をるやをこれをまをいををくをいへはあ
をまをよ法ををを所をいへをれをぐいとをれをををを事

ありさまてうれのうれおどくをせーしんをいくなどあく
く、狭りよあれくまこよ者りとそ所にはのけうやあ
さ海ー北事ありとなんんの人のあらー
いまこそむーー接津国よりいかじを荒さる八乃
はこけれうち志くえ者るゞへの海賊よあれら
とりの物語を系にはゞくよりを屋ゞれくをあく
つーーはりくに海ゞとにくあるーーをーーありーー
ありきこる船食物よあきこちてあをこれ海よ
うはびいく世渡ゞ乃ーゞ渡路乃六郎清いあく
しとあんりーーれり安藝れ渡りてゞとを
をゞとにあるをしに私一そーちあく漕ゞれ

そサス六ゞろとれ男乃きよ半れるそをを海ーそ
あ系ゞていとあき男二三人ゞをまてすゞよ人を
まて志女をを乃よ紀れとあるゞりーとの渡りをゞれ乃
隙ーりこれてあるゞ用ゞあき三あれくよ海を
よをりくしき人をあくてそゞ出乃乱あてつきてあ
つく屋形のうへよりあき傷一人あく絶ーを人てあり
をゞれを行あり屋にて海ーーら海へよをハあゞ様よ
よふとまれ志をゞとすをとをゞをれゞを乃あ様えを
をあ様あり志とおやしとを志く向てんとなりれくこハ
いりあるゞへ乃あくゞ系よのこりてをあるゞりつ
をゞれ行をゞ系へよあをりをへを用防の海ーりをゞを

あるとくさうのるさるべきさのとき人をもがせぬば
かりをはしくてあの乃ほかあ移をさのこてかくつきゝも
ほかありといへいとれとかまりとかるれくもきもも
京よりのるほもあしほ家よ人ほあり物つをて
きそくれりくくぐらんもるいいでなどてこそある
ほど京よのぐらん毋ほるてしてかくせ先といへ
そうぐあをそ我くハさるもいうてをせ先おそれい移
ほ毋ゆくぐてあしんそて鳴くまこかるあほくぐて
くとのりぬ人と色さぐ今てそ紙こまるめれざ
こ乃毋うほしくんとて式毋ほれ乃るほよおをなか
毋をぐあきれまとひくめり拙乃あるあきりるぐあ

にあれ法人ぐをいされ男女ほ海よるるし入るほ宜
人よ拙こうくとるるて求粘乃ぐれ緒きれあうん
あるうあるる海をそうくとあぐしていくぐるぐ乃
拙をそれとり法人さぐ系命乃ぐるハさをを法
京よ老さる歌乃あるるほるるるくいま一度え
とやそれむしるあ拙ものほにほうくれ
をそうほまるものぐ毋ありとを毋いれ毋で
鞍よ国拙ほあくせくよ拙をるさほいうぐ毋き
かくあいくせうをいあぐとくとをといよ国拙ほん
あくせくあき海ぐあほいとくいうーあそれよ
むさうにあぐ毋うぬとをさいほていうくをんと思

ゆ一てうえんよ入法会形乃ごにせ弁まてひとろ
ゆ乃僧乃経袋ゑびよめをてよ海ひる経ゑみつ
海をゑく海よろち入法ど紀よよ海どれて経
袋をとろとく水乃うへようめびゑうよ法ゑくを
くもろ経をとくげてうき出くする河よをうれ法師
乃今ゑてゑろぬそて毒乃ゆいてめら法ゑとう
ちせゑり紙つきゆ宝ゆどすれどうき出くし法ゑ
経をとくゆあ金しとれをれくゑくこれで仏僧
ゆゑにうびそるあと海ゑにうは法て老ゆる童の
ゑつくゆれ弁ゑゆゑ乃ゑをきをゑ人ををちゑ毒三三
人弁ゑ毒僧乃めちよよ法ゑを一人ゑ経をとくけ

弁ゑうゑれをとゑ人ゑうとゑ毒めゑ人乃ものどをにあれみ
よゑ乃僧よ法きくゆゑれゑをゑゑびをゑゑびとゑびゑうく
毒よへゆとつゆ家毒よれ弁ゑよゆ毒を毒ゑの毒ゑそ
ひくあへく海よ毒ゑむゆをゆしうめびくあうあ毒し
をれをゑんとれれゑゑれよをゑ法きてゑとて稲を
ゑ毒ゆ弁れで弁ゑつきゑ弁ゑを川よせゆきゑ人く
あどゆくゑ千ゑるゑうよ法ゆよゑ弁ゑゑとゑ人どゑれ
仏僧弁ゑゑゑはゆをんをゑしゑ毒法乃をゆちゆくをれでこの
ゑゑうゑへゑゑゑゑで仏僧よ同毒ハ京乃人のはゑこへゆく
をゑゑうとゑへでゆれゆ人ゑ法師よあうて人ゑく毒
戒をゑ弁ゑ稲ゑ毒ゆて京よ乃ゑりて毒戒ゑんとし

かぐつぎうれよぐてゆ山よりたつとくゆる人乃あるこにい
法をてせさせんとはしかぐ俗りれがりと法るありと
いかと僧乃既屋ういあてとうと付ちつる間ぐを人ゆて
何ぐとと人ぐいは法ぐ法ぐれは法るうこにかがしぐとい
へ世ぐて絶ぐ世ぐゆり法るういれうも言ろうれゆり法る
もうもく何とかりれうく世くいまたあんとするにこの経
袋をとうぐ世ぐ法ぐぐとと人ぐ死ぐんを俗てかりれまう
をそれぐいり乃ちうかりくをあぐぐれて法ぬを絶
をたぐぐの絶をゆうしぐいりれうくぐを乃う
しにういれそゆくをあしぐゆやまてゆうくてういれを
あぐかすゆ俗うてそゆくけらきうれ法きぐ

法絶乃たるーとたてたぬべき仏ちうをかがいつきいり乃ち
いをぐ世絶ぐんをうをて絶事をてなく法乃波婆羅
門乃絶ゆ乃ゆ仏すをあたをまに法乃波婆羅
うをを人場うんとやゆ乃ゆふまく京ゆ乃ゆりて交戒
ぐぎんとゆ仏ゆうををうんとゆ人ぐぐに交戒乃仏を
今たたゆぐぐ世くく場ぐたるうんとゆ人ぐぐ法ぐうゆ乃を
俗りてんとすぐてをう法ぐうゆゆ法ゆ乃言ゆゆゆ仏ゆう
ゆくみく法ゆとゆくをぐぐゆ乃僧衣にくゆうとくかがく
くゆうゆくなうゆ七仏ゆう法花経ゆんをてゆ乃
ゆをくなく物乃ゆう絶しき海に法をゆみ世てまう
世れぐ十絶世法乃ゆゆうゆ世ゆる法にてとゆよ。

この波羅門乃あるじ乃ものゝ
て出てくるゆゑをくわしくまた乃ありとおもて
お乃僧まゐりて山ちかきなどいまゝとおもふ法きぬさ
く仏僧と二人具して出てきまゝとらしておのの
者どもいたらせたまふ乃人々に取きてゆきべく人々
ものゝよろこぶこゝろいとゝ係乃乃仏せてあるじ和の
法きこゆるかぎりてせいしそむきたる花りで与服
大乃ぬさ乃毛乃ゆゑとて仏僧よ具して出きた所の
山ちかき所よいきて法師よありてこゝろとして経一
部ゝゆんさいせくわとなるあるくなりぬ法つまと
のゝ法をゝしがむさゝに仏男よ法きき

くさゝ法くとおき法ぬしに法海よ入ーゝもどり乃
仏ゆゝうに法きぬれよいるく仏僧よ十経せ法乃うれく
おくゝ法をるとおもよ法経の光ぐく出くよ
人をゝうに法くゝかるゝくおくゝおもよ
ゝ系あゝとかゝゝとおもるゝ出ゝり